大正元年十二月一日納本發行（毎月一日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第九巻第十號

目次

◎クリスマスの精神（一）……小此木松子
◎基督の降誕に就て（四）……山田寅之助
◎道場としての家庭（六）……田川大吉郎
◎二人の同情すべき婦人と其境遇の轉機（一二）……沖荷環山
◎慕ふ心（一六）……白井胤祿
◎「霧の中より」を讀む（二〇）……エム、エル、マキユセ
◎基督と人生（二四）……柏井園
◎會の消息（二八）……
△日本基督教女子青年會—新幹事の來朝—横濱女子倶樂部設立—外人宿泊所の開始—編輯者辭任△東京基督教女子青年會 委員會—女子學生大會△札幌女子青年會（北星女學校）女學校△横濱共立女學校
◎辭任の辭……小橋三四子

日本基督教女子青年會發行

女子寄宿舍

基督教女子青年會は

牛込區納戸町四十五番地

小石川區水道町二十八番地

の二ヶ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲めに及ぶ限りのお世話を致して居ります。

右の寄宿舍は門倉ふじ子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります。東京に家庭又は適當の保護者のない方々をして、家庭に於けると同樣に勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります。入塾希望の御方は願書を監督者門倉ふじ子氏或は大西絹子氏に宛てゝお送り下さい。

尙同舍は一時の宿泊も許しますから、講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を計る事が出來ます。

寄宿舍委員長　今西糸子

「女子青年界」

一、「女子青年界」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する雜誌也。

一、「女子青年界」は一年分郵稅共五拾錢、一部郵稅共金五錢さす。

一、日本基督教女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子

副委員長　阿見惠子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員
萬國學生基督教青年會同盟委員
同監督委員　河井道子

一「女子青年界」編輯主任　小此木松子

東京在住委員

津田梅子　エ、ピ、ジエスト

鈴木歌子　小此木松子

長谷川喜多子　二宮貞子

エム、ファイシャー　ザッ、エリ

山田千代子　イ、ウ…、ナ…

地方在住委員

大阪　廣岡淺子　京都　ミ、デ、ミス…

京都　佐伯小糸子　廣島　ミス、…

京都　松田道子　岡山　上代淑子

幹事

日本基督教總幹事　河井道子

同　幹事　エ、ジ、…

東京基督教總幹事　ア、エル、…

同　幹事　エム、エ、…

同　特志幹事　エム、…

「女子青年界」編輯者　小橋三四子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子青年界　第九巻第十一號　（大正元年十二月一日）

クリスマスの精神

小此木松子

△習慣的クリスマス

年々の十二月に、基督の降誕祭を祝ふといふ事は現今、世界の多くの國々で行はれて居り、其祝ひの表面のみを見れば、何となく、我國古來の正月祝に似通つたところもある樣であります。近來は我國に於ても、此降誕祭を紀念するといふ事が追々流行し出し、十二月に入ては、早くから、其處此處で其準備に忙しいのを見受けます。即ち此日は目出たい、喜ばしい日であるから業務を休み、或は會堂に或は家庭に團欒して多勢のものが共に樂しむといふ事が唯今の處、何處にも行はれて居りますが、此樣にして大勢のものが、一日或は數日の休養をとり、共に娯樂を得るといふ事は、眞に宜しい事、大切な事であるのは申す迄もありませむ。平生は疎遠になつた親戚故舊が此時を使つて相會したり、或は物を贈り、或は詞を通ずる、特に我人共に、今日は樂しみ遊ぶ日であるといふ事を知覺するのは、實に得難い愉快を與へるものであります。一年の中に一度でも此樣な日を得ますのは、老若を問はず、誰にでも身體の休養となり、また精神の上に活氣と餘裕とを添へ、廣い意味での「喜び」の意味を解らせる一助ともならうかと思ひます。然し此種の祝日が最深い、重大な影響を與へるのは頑是ない子供の心でありませう。

皆樣の中の或お方は、幼い時のクリスマスを御經驗なさらなかつたかも知れませむ、不幸にして私なども、青年期に入るまで、其樂しみを知りませむでした。然し唯今、甥やら姪やら幼い人達が、如何にクリスマスを待ち慕ふか、昔は「お正月」といふ言葉が、私共の頭に、何とも云へぬ華やかな影を宿したのが、今の子供には、所謂「クリスマス」が、如何に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明るい楽しい印象を與へるかといふ事を考へますと是等の子供が、クリスマスから受ける影響は決して些細なものでは無い事を認めます。さうして、此世界的の祝日を最完全な方法に依て祝ひ、子供心の喜びの中に、眞の基督を畫き、知らず〳〵に其御精神を感得させる一助とするは、吾々年長者の務めではありますまいか。

△クリスマスの意義

本を忘れて末に馳るといふ事は、兎角吾々に有り勝ちな、陷り易い弱點でありますが、吾々信者に取て最意味深かる可き降誕祭に就て亦少からず此事を感じます。即ち世には唯々喜び祝ふといふ末をのみ仕來つて、何が故にといふ事を思はぬ樣なクリスマス祭を往々にして見る事があります。是は強ちに敎會に於てのみでも無く、或は家庭に於てのみでも無く、一般個人の心の中に何故に耶蘇の降誕を祝するかといふ根本思想が餘り深くは刻まれて居らぬ爲でありませう。唯末に馳つて、或は物品を贈答し、祝宴を張り、集會を催し綺羅を飾りて足れりとする樣なのは、まことに愚かしい事に過ぎませむ。近代では兎角に、「方便」を用ゐる事が流行で、物其ものには直達せず、他物を借りて媒介とし、隱れたる目的を間接に遂行する向きの事が多くなりますが是はまことに殘念な傾向で、世が此樣に逆行するならば凡ての信用、快活、徹底といふ樣な氣持の宜い分子は段々に去られて終ひ、まことに、憐れに複雜な倚り所の無い社會と成り果てませう、殊に信仰界の事に關して此種の傾きが生じますのは、最恐る可き事で、此クリスマスの精神なども、枝葉の少さい便宜の爲に時に全然忘れられて居るのは、眞に嘆く可きものであります。基督御一代の精神は、「得る」ことに非ずして「與へる」にありました。夫れ故に其基督の降誕を表榜するクリスマスには、快樂なり滿足なりを得るのが精神では無く、其等のものを與ふる事を主眼としたならば、此日の意義は永遠に保れる事でせう。凡そ世の中に美はしい事は多くとも、悅むで與ふる犧牲ほど香りの高いものはありませむ。是を我等にお示しになつたのが基督であつて見ると、同じ其精神を以て此時を迎へるのは、疑ひも無く至當な事で、此大いなる救世主を我等に與へられた神に謝するの道であらうと思はれます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

是を子供に見ますると、彼の時として敎會に見る繁かしき字句の暗誦、或は子供には不適當なる演藝的催し等は、勿論害あつて益なきもの避く可きでありますが、敎會或は家庭に於ての無邪氣な遊び、或は贈物等に依て、此日を嬉しい時と感じさせるばかりで無く、悦むで與ふ可き日、或は物質にせよ時間にせよ勞力にせよ、子供相當な働きを基督の爲に悦むでする日として記憶させたならば、此日の意義は一層深くなる事であらうと思はれます。

△我國とクリスマス

前にも申しましたやうに近年では我國にも、所謂「クリスマス」をするといふ事が、一般に多くなつて祝宴を催す家は少いまでも、贈答をする習慣の増して來た事は、銀座通りなどを歩けば、直に感ぜらるる事です。是は單に歐米に於て行はるゝ形式のみが移されたのか、或は其日の精神をも汲み來つたものか、是を一朝にして言ふ事は出來ませむが、我國の現狀に照して、何處までも其後者であらむ事を希望して止みませむ。原來我國の武士道思想は社會上の犧牲を示して、君國の爲には、凡てを拋つことを敎へ、又舊來の家庭主義は、一家に於ける沒自我を唱へて、長上の爲に己れを捨つるを說き、内外相俟つて世界史上に誇る可き最美はしい一種の道德思想を生じましたが、文明の變化に從つて、是等從來の根本義に動搖を生じました。而して是に代る可き强き信念を得難いが爲に、現今の日本に見る樣な、定りの無い社會を見る事になりましたが、此時に當つて、出でゝ彼の義烈なる武士道的犧牲に代る可き力あるものは、即ち基督の愛の敎、基督の溫き犧牲であります。

是等の事を思ひますれば、來らむとするクリスマスを迎ふる吾々の覺悟は、自ら明になりませう。而して夫れを以て、續く一年間の精神としましたならば、或は基督に近かむとする我等努力の一助ともなりませうか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

談叢

基督の降誕に就て

山田寅之助

△人より生れ給へる事

キリストの降誕を祝するに方りて、我等の心に記めて忘るべからざる事が多くありますが、今其二三の點を述べやうと思ふのである。

第一は『爾曹のために救主うまれ給へり（路二〇十一）と云ふ事である。我等の救主なるキリストは天より降りたるが、其降り給へる方法は、うまれ給ふ事である。天に在りしキリストは單に地に降つたのではない、うまるゝ事に由て天より地に降つたのである。キリストは聖書に依れば『父の生たまへる獨子』（約一〇十五）と云はれて居る。されば彼は甞て神より生れたるものである、けれども天より地に降りたまへる時には、神より生れたるにはあらずして、人より生れたのである。馬太には『このマリアよりキリストと稱るイエス生れ給ひき』（一〇十六）とある。されば彼は地に降らんとて、マリアより生れ給ふたのである、マリアは普通の人間に外ならざればキリストも普通の人間より生れたまふたのである。生まるゝものゝ性質の如何は、生むものゝ性質に由て定まるものである。類は類を生むのは天則である、人の人たるは人より生るゝが爲めである。創世記に曰『神言給けるは地は生物を其類に從て出し家畜と昆蟲と地の獸を其類に從て出だすべしと卽ち斯なりぬ』（一〇二四）、キリストも甞て『誰か荊棘より葡萄をとり蒺藜より無花果を採ることをせん』（太七〇十七）と云ふた事がある、されば人より生れたるものは必ず人である、キリストは人なるマリアより生れたる以上は、必ず人でなくてはならぬ。彼が神より生れたる點より云へば神と云はねばならぬが、人より生れたる點より云へば人と云はねばならぬ。され

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ば神たる彼が世に降るに及んで人となつたのである、人が人となつたのではなくして、神が人となつたのである。マリアより生れたるは即ち人とならんが爲めである、單に人の形體のみを取つたのではなくして、人となつたのである、人間に假裝したのではなくして、眞に人間となつたのである、人として具ふべきものは凡て彼の中に具つて居る、彼は人なるキリストである　是れ彼が『われらの荏弱を體恤』ことを得る所以である。この點に於てキリストは我等の救主であると同時に、我等の兄弟であり、また我等の友人である。

△槽に生れ給へり

第二は槽に生れ給へる事である、聖書に『爾曹布にて裹し嬰兒の槽に臥たるを見ん是その徵なり』（路二〇十二）とある。槽とは家畜の食器である。キリストの生れたる場處は、岩に堀りたる横穴にして厩なれば、其處に在りし槽を搖籃に代用したのである。或る繪畫にはこの厩も隨分美化されて描かれては居るが、實際は甚だ不潔な、しかも陰氣な處である。普通の貧民すらも、斯る處で子を生む事がない、キリストは貧民中の貧民として生れ給ふたのである、彼の父母の生活については我等は明かに知り得ざるも、貧困の生活を送つたものと思はるゝ、神殿に於て羔の代りに、鴿を供へたるを見ても、其貧困なりし事を察するに足る、ヨセフは大工ではあつたが、決して立派な建築家ではない、キリストも幼少の時には父の手傳をなして居つたが、早く父に別れたるが爲めに、三十歲まで貧困の生活を送り續けたものと思はる、されば彼がベツレヘムの厩に生れてより其死に至るまで、一生涯貧困であつたと云はねばならぬ、彼が槽の中に臥したるは即ち其貧困の生活に入り始めたのである、神の子も我等を救はんとて、貧困の生涯に入り給ふたのである、彼の槽は其十字架の前兆である、其生涯の始は槽にして、其終はりは十字架である、彼の降誕を祝するに方りて、我等は其苦難の生涯に入り給ひたるを思起し、感謝の情を以て祝さねばならぬ、使徒パウロが云ふた『なんぢら我等の主イエスキリストの恩をしるかれは富るものなりしがなんぢらの爲に貧きものとなれり、これなんぢらが彼の窮乏に由て富るものとならん爲なり』（哥後八〇九）。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△萬國民の救世主

第三はキリストの萬國民の救主たる事である。ユダヤ人の豫期したるが如く、もうキリストは國民的救主としてユダヤに生れたりとせば、ユダヤ人ならざる我等は其降誕を祝するの理由がない、けれどもキリストはユダヤ人の救主たるのみならず、世界萬國民の救主である。天使の牧者に告げたる言に『懼るること勿れわれ萬民に關りたる大なる喜の音をなんぢらに告べし』(路二〇十)とある。當時のユダヤ國は世界の中心にして、全世界に神の道を傳へんには、ユダヤ程便利なる地はなかつたのである。そしてこの地に永く住居したるユダヤ民族は、世界に福音を宣傳するの使命を帶びたるものである。ユダヤ人はキリストの萬國民の救主たるを知らざりしが、彼の萬國民の救主たることは昔より預言されたる所である。曰『われまた汝を立て異邦人の光となし我がすくひを地のはてにまで到らしむ』(イザヤ四九〇六)、而してキリスト自身は世界的救主たるの自覺を以て世に立れ、己が弟子に命じて『エルサレム、ユダヤ全國サマリヤおよび地の極にまで我が證人となるべし』(徒一〇八)と云ひ、又『徧く世界を廻て凡の人に福音を宣傳よ』(可十六〇十五)と云ふた、今やキリストの光は世界の極より極にまで輝き渡り、文野の別なく、凡の人々は其光を仰ぐ事を得るやうになつた、彼は『すべての人を照らす眞の光』である。是れ萬民皆其降誕を祝する所以である。

道場としての家庭

田川大吉郎

△道場の起元

道場の起りは佛教から來て居る、然し日本の社會には武士が武藝を稽古するところとして廣く知られて居る。五六十年前の社會には武家の男子と云ふ男子は、撃劍の道具を肩にして、道場に出かけたものである。今日の學生が中學や大學などに登校すると

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同じことであつた。然し其の道場と云ふ名は、沙羅雙樹の花の色、盛者必滅の理を現はし、祇園精舍の鐘の音、諸行無常と響くなりと云ふ其の精舍を道場として道を研究したところから來たのである。今日お話したいと思ふのは、道を修める意味の道場として家庭を見たいのである。道を學ぶなど云ふと億劫に聞えるが、誰でも是れは學ばねばならぬものである。聖書には太初に道あり、萬物之に由りて造らるとある。故に老も若きも之を學ばねばならぬ。之を學ぶ場所は澤山ある。學校も教會も社會も皆是れである。就中最も之に適はしきものは家庭である。

△家庭の意義

家庭とは如何なるところであるか、時代によつて考へ方も違ふが、ラスキンの言に出れば「家庭は平和の場所で、他の侵害や、恐怖や、疑惑や、差別の這入り來らぬ神聖なる場所である」と云つて居る。家庭は單に家族が慰安と休息とを得る爲めのみならず、同時に修行を爲すところである。此點は舊來の家に於ては缺けて居た。昔の家は只だ疲れを休めるところ、憩ふところ、寛ろぐところ、戰ふ力を恢復するところとのみ考へられたので、道義上の訓練をする意味が徹底しなかつた。此にはラスキンの言を土臺にして、家庭を修養の場所と見たいものである。

△家庭と立憲政治

先づ家庭に於ても我が立憲政體の精神を實行して貰ひたい。立憲政體など云ふと六かしいやうであるが、これは畢竟分業の政治、換言すれば自治の政治である。父は父、母は母、兄弟は兄弟、召使は召使として、各力を勵むのである。持前の仕事を重んじ他のものを犯さぬことである。誰も此の方針によつて居るであらうが、之を實行する段になると、中々きちんと物の順序の立つて居る家庭は少ない。子供なども、要するに彼等が自身のものを始末する習慣がないからである。下女とか姉とかに委せるからいかぬ。今日の家庭には未だ立憲政治が行はれて居らぬ。自分のものは自分が始末する分業自治が家庭に於て立派に行はれるやうになれば、なすくりつけ主義で、規律が立つて居ないときは、到底立憲政治を

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

完うすることは出來ない、聖書の言を以てせば、全身目ならば聞くところは何處ぞや、全身耳ならば見るところは何處ぞや云々とあるやうに、詰り手は手の用をなし、目は目の用をなす。目の用を以て耳の用をなすことは出來ぬ。かくして始めて全身が調和を保つのである。家には父も母も子もあるから、各々其の分に應じて用を爲せば好い。かくて家を統一せしむることが家庭の滿足なる要素である。

△基督教と家庭

余が家庭を道場と見るのは、之が基督教を學び、精神上の修養をなすに最も好い場所と信ずるからである。家庭を道場として基督を知り、之を消化し、滿足に受け入れるならば、新しい光が其のうちに這入つて來る。基督教は家庭的宗教である。基督教は家庭に於て學ばれ得べきものである。基督教は家庭に其の根を置いたもので、兩者決して相離るべきものではない。故に基督教の本當の精神を發揮すれば卽ち家庭の本當の精神を發揮することになる。

△我親は幾度我罪を許しゝぞ

基督教を學ぶ者は、此教は實行し難い、近づき難いものであると考へ易い。成るほど基督教には高い標準が教へてあるから、一方から考へれば然うである。千百年を經てゝも行はれ難いものがある。然し近い方面から云へば、日常生活に觸れて居る。今基督教に於て實行し難いと考へられる二三の點を考へて見たい。ペテロが耶蘇に向ひ、人の罪を赦すは幾度までか、七度までかと尋ねたところ、耶蘇は七度とは云はじ、七度を七十倍せよと云はれた。人の罪を赦すこと實に四百九十回とは大變なことである。そんなことが出來るものか、佛の面も三度と云ふではないが、それだから基督教は困難な教へだと云ふ者がある。然し之を家庭に歸つて考へられよ、父母が子供の過失を赦すことは幾度であらうか。七度赦された位で、すつかり改めた方が幾人ありませうか。吾々は人となる迄には母が七度を七十倍せるは愚か幾度赦されて今日あるを得たかわからぬのである。下女の過失に對しても矢張り此の標準を以てするに至らば、下女が長續きせぬなど云ふ心配は必ずなからうと思ふ。此んな風に基督教は實世間に遠い教へであるやうであるが、家庭に就て考ふれば、極めて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

普通のことである。

△母は子の足を洗ふ

耶蘇は曾て其の弟子の足を洗はれたことがある。自分は汝らの師また主なるに汝らの足を洗ふ、汝らも互に足を洗へと戒められた。是れも實行し難いことである。ペテロは汝斷えて吾が足を洗ふ可らずと云つた。すると耶蘇は之に答へて、若し我汝の足を洗らはずば、汝は我と干渉なしと云はれた。然し家庭に於て之を考へると何うであらう。母は子供の師また主であるが、幾度子供の足を洗はれたか知れない。自分の子供の足を洗つた經驗のないものは、親たるの責めを盡したものでなく、親子の關係もないものである。家庭のうちでは基督の敎へを實行する事は困難だとは思へない。此の心持や習慣を家庭の全般に及ぼしたならば、本當の家庭が出來るであらう。

△母の愛即ち神の愛

また耶蘇は「汝ら疲れたるもの、重きを負へるものは我に來れ、我汝等を休ません」と云はれた。此の言は基督に於て始めて實行し、主張せらるゝものであらう。然し基督でなくば云ひ得ぬ如きことすら家庭に於ては行はれて居る。人々が時として學校に於て面白くないことに逢つて、くやしい殘念と思ふて家に歸つた時、之れを慰め、休ませるものは母ではないか。母は實に子供の負ひ切れぬ重荷を頒ち負ふて居る。人々は如何程母の慈愛に浴して居るか分らぬ。基督敎は他人の爲めに盡す敎へである。曾てペテロは乞食に物を乞はれた時に「金錢は我に無し主耶蘇基督の名に於て立つて歩め」と云つた。多くの人々のうちにも、金錢は我になしと云ふやうな方があらう。學窓にある間、有福な方の間にあつて、之に敗けぬやうに仕送りの出來ぬ家庭もあらう。金錢の力は與へ得ぬが、少しも心に臆するところなく勵み勇んで勉强し得らるゝものは何んであらうか。制限なしに子供の要求する如くに與へる金錢の爲めに却つて此の以外の力を弱めらるることがある。大切な場合に金錢の力では役に立たぬことがる。親の目にも涙、子の目にも涙。然し家門の譽れを思ふて謂知れぬ力を得ることがある。余はそのやうな力を有するものが、一人でも多く起らんことを祈つて止まない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△家庭は國家社會の雛形

パウルゼンは「知識、學藝は學校に於て學ばしめん、然れども道義は家庭に於て修むべき者である。如何となれば家庭は國家社會の小さき雛形であるからである。人間には根本の形式が三つある。第一は同等なるものが相對する關係、第二は上のものが下のものに對する關係、第三は下のものが上のものに對する關係である。此等根本の社會の形式は、凡て家庭のうちに備つて居る」と云つて居る。家庭のうちで云へば、夫婦、兄弟、姉妹は各々同等の關係である。然し子が親に對する時は下の者が上の者に對する關係となる。親が子に對する時は上の者が下の者に對する關係となる。家庭では此等の關係が定つて居て、此の事實の上に出づることは出來ぬ。是れあるが爲めに家庭が圓滿に活るのである。從順、憐憫、思ひ遣り、同等、正義、友愛等が學び易きやうに出來て居る。家庭は道德的建築の基礎である。また道德的有機體の心臟及び動脈である。耶蘇は高い立場から低い立場に居るものゝ足を洗はれたのみならず、一方に於ては之を友と呼ばれ給ふた。家庭に於ても父母を主と見、師と見るべきであるが、他方に於ては友である。基督教を學ぶ者は召使ひを僕と云はず、家庭の一員として取扱ふやうにならねばならぬ。基督に於て新しい生活に這入つたものは、此れ位の心懸けがなくてはならぬ。子供もまた敎師たり、先生たることがある。負ふた子に淺瀨を敎へられる例しは少くはない。耶蘇は最も適切なる手本を示された。曰く幼子の如くならずば天國に入る能はず、天國の完き人の姿は幼兒の姿に似て居る。幼兒は家庭に於て天使の權化である。

△四海兄弟の第一歩

耶蘇は神との關係を說いて、父我に在り、我父に在ると云はれたが、我々はいづこいかなる處にあつてもまた親心を代表して居るものである。「世の中に思ひあれども子を思ふ思ひにまさる思ひなきかな」この深き親心が分らないにしても、親の膝下を遠く離れてもなほわれ等の心から親の慈愛を離す事が出來ず、始終親の心がわれ等の衷に宿つて居るのを覺ゆるであらう。假令世界を一家として親しむことは出來ぬとも、家庭ならば其れが出來る。百里の遠き

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に逹せんと思ふ者は、先づ一歩より始めよ。社會に基督敎の精神を充たしめんには、先づ父われに在りわれ父に在りといふ父子の思想の一致を確實にしなければならぬ。近來動もすれば進歩せる女子と古き親との間に衝突があると云ふことであるが、其のやうなものは此の精神を發揮すれば一掃し去ることが出來るであらう。

△家庭は涙ある所

最後に今一つのことを語りたい。家庭は涙のあるところである。涙は世智辛い世の中のみにあるものでなく、温い家庭にもある。寧ろ世間には割に涙が少くて家庭に多い。基督敎はまた此の心持をも敎へて居る。「耶蘇涙を流したまへり」耶蘇が涙を流し給ふたのは、社會的出來事でなく、家庭的出來事であつた。涙は人の誠の發揮されたものである。心なくして泣くは論外で、人は嬉しいにせよ、悲しいにせよ眞から泣くのは家庭のやうにしんみり心の溶け合つて居るところでなければ出來ぬ。然らざれば泣きたくても泣けるものではない。親の死目に逢ふとか兄弟姉妹の死目に逢ふとか、悔めども復らぬことが家庭には多く起る。實に家庭は涙の多いところである。余は本氣に泣きたいと思ふ。泣くのが人生である。

斯く考へ來ると、社會よりも家庭の方が修養に適すると云ひ得らるゝであらう。我々は日々此のやうな出來事に接して居る。家庭は道義によつて組織されたものである。故に我々は家庭に於て常に最も深き道義の心が練られるのである。（東京基督敎女子青年會主催女子學生大會に於ける講演。文責記者にあり）

汝しらざるか聞ざるかエホバは
　とこしへの神地のはての創造者にして
倦たまふことなくまた疲れたまふことなく、
　その聰明こと測りがたし。
疲れたるものには力をあたへ
　勢力なきものには強きをまし加へたまふ。
年少きものもつかれてうみ
　壯んなるものも衰へおとろふ。
然はあれどエホバを俟望むものは
　新なる力をえん。
また鷲のごとく翼をはりてのぼらん、
　走れどもつかれず歩めども倦ざるべし。
　　以賽亞書四十章二十八三十一節

二人の同情すべき婦人と其境遇の轉機

津荷環山

△マリヤとエリサベツ

今はクリスマスも近付たので何かクリスマスに適した樣な話をと所望せられたのである。それで茲に路加傳一章の記事に就て自己の感想を述べて見やうと思ふ。勿論自分は茲に此記事の歷史的詮索や、科學的の研究などをしやうといふ考へは少しもないので唯讀んだ處で自分の胸に浮び來つた儘の事を述べて、我等の教訓を學び度いと思ふのである。

路加傳の一章五節以下には、實に可愛相な二婦人の記事が書てある。世の多くの人々にはこれが喜ばしい記事として讀まれて居るのであるが、自分は寧ろ其悲慘な點を思はざるを得ない。これは申までもなくマリヤとエリサベツの二人の懷妊したといふ事である。世に何が悲慘であるいふたとて、心の内に言ふべき事を持つて居つてしかも之れを主張する事が出來ぬ場合や、又自らは甚潔白であるのに然かも世人の誤解を解く事が出來ぬ、若しこれを解かんとすれば上向ての唾で、其災が又我身に及ぶので、世人の言ふが儘に任じてジツト堪へて居るといふより悲慘な境界はない。路加傳の記事は實にそれである。

△マリヤの懷胎

イエスは誰の子であつたかそれは知らない、けれども若しそれがヨセフの子であるとしたならば、そしてヨセフが此聘定中にマリヤの懷妊した事を恥ぢ恐れて、密に離緣しようなざいふ事を(馬太一、十九)考へて居て、それで昔日の厚情も薄らいだ。而も自分は其胤を宿して、世人の前に恥を被ふすべもない、然もそれが不義でない、所定の主の子であるが、しかもこれを公に言ひ解かんとすれば恥て居る

夫に對してすまぬ事となる。又恐らくはマリヤはそれ程其過ちを恥て居る夫に對して、此事を訴へ得なかつたであろう。言へば夫の恥、言はねば世人の誤解、彼が若き處女の胸には如何計り重荷であつたであらうか。若し又イエスが神の子として神靈に感じたのみで懷姙したのであつたならば如何。今でこそ多くの信者はそれを信じて疑はないのであるが、これを言ひ解くべき道があらう乎、彼は唯世人の被ふ黑雲を頭にうけて、かすかに雲間を輝る天の光に訴へるより外は無かつたのである。

マリヤ、エリサベツを訪ふ

一方エリサベツはどうであつたか、老年になるまで子がなくて世人が子なしとして居る頃にふと懷姙した。それが爲めに第一頼に思ふ夫が疑惑を抱た、彼は天の使にいふた。兩人とも年も進んだ今日まで子のなかつたものが、最早世人の望なき時に子の產まれるなどゝいふ道理はありませんと。ザカリヤはこれが爲め此時から啞となつた。無言、嗚呼これ如何なる徵罰であらうか、勿論ザカリヤに對しても堪へ難き事であるが、エリサベツに對しては更に忍び難い事である。然しこれも又言ひ解くの道がない疑は事にあるよりは心にある事が多い。心のヒガンだ人、これは如何にして言ひ解くの道はないのである。唯彼等の心の解ける時を待つより外はない。エリサベツが此苦痛を忍で寂しい山里に神が夫の心を解き給ふ時を待て暮して居る。其六ヶ月であつたかマリヤは遙々尋ねて行たのである。勿論言ひ難き心の苦痛を語り合ふて相慰めんとの意であつたであらう、エリサベツの喜びは如何計りであつたか、子の其胎内に躍動したと書てある。同病相憐の譬の如く、同じ境遇に同じ憂目を見る彼等兩人の會見は如何であつたらうか、想像するに餘りある事である。彼等が同居した三月、勿論彼等の賴は神であつた。彼等の屈托が神によつて舒べらるゝ日の一日も速かならん事を望み、彼等は常に「我心主を讃め、我靈魂は救主なる神を歡ぶ」と日每に神を讃美して居つたのである。

△暗黑啓けて光明來る

此の如き暗黑の歲は過ぎて喜びの日は來つた。エリサベツは愈强健な男子を生み落したか、見れば擬

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふ方なきザカリヤの子である。一年の間沈默の中に居つた彼の口は融けて、而も子の無き寥しい生涯の苦痛も一洗せられたザカリヤ如何で讃美をざるを得よう、彼は前途に多大の希望を以て「主なるイスラエルの神は讃むべき哉、これ其民を顧み贖をなし、我儕の爲めに救極の角を其僕ダビデの家に挺給へばなり」と歌ふた。孰れの國でも子のないといふ事は非常に恥たものであるが、猶太では之れを神の捨て給ふた印であると考て居つた。それが爲めに老年に及で此子の與へらるゝ事は神の眷顧を辱した事で人々の蔑より贖はれた事なのである。又誰しも子を與へられた時に其子の國民の内に雄飛せぬを望まぬものはないが、ザカリヤの心には此子がイスラエル國民の中に救極の力となるべき事と信せざる、否寧ろ強く望まざるを得なかつたのであらう。此時は實にイスラエルに約束せられたメシャの希望の盛んであつた時であるから、古預言者の口を以て約し給ふた其誓約を思ふて、此の如き希望は我此の子によりて達せられずやと、彼が日頃より敬虔なる奉仕の生涯を遂げた丈それ丈強く起つたのであらう。而して一面マリヤの方では未だ時の滿たぬ間にヨセフに承認せられ、遂に馬小屋の中に一子を產だのであるが今は此子の爲めに夫婦諸共苦樂を忍ぶ身となつた。人生の歡樂は決して持物の豐なる事でない、例へ馬小屋の中でも信じ信じられたものが苦樂を共にして人格の發達を企圖して行く處に存するのである。寥しい孤獨な生涯も人の子の生まるゝ喜びによつて一轉して不自由な生涯迫害至らざるなき生涯も、我子の爲めに忍び耐へ、愛する夫の爲めに艱難多き浮世の務めも易々として果す身となつた。マリヤが胎兒の爲めに如何なる境遇をも甘んじて耐へた事は、彼が「我はこれ主の使女なり」といふた言葉の中に充分顯はれて居る。子を與へらるゝといふは深き神の思召である、種々なる事情の爲めに斯く身に黑雲は覆ふて居れど、自棄自暴すべきではない、我はこれ尊き神の使女である、我には仕ふべき使命が與へられたと彼が自治自重の精神は、此隻語の中に充分顯はれて居る。

△人格誕生の苦痛と喜悦

思ふに人生は各自肉體ならぬ子を生む過程である此二人は女子として肉體的の子を生んだのである

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、人は各自の中に其の人格を生み出さなければならぬ。而して人生の凡ての紛紜は各自の中に此人格を作るべき心作用のあるが爲めに生じて居るのである。而も此心が充分の發達を遂げて、一個の人格となるに至るならば、人生の凡ての不平や、憤懣や、憂や、怨やは凡て消え失せてしまうのである。人が我に不義を爲すか、我に憤りの生ずるよりも、寧ろ憐が生ずるのである。人が我を押のけて前に進まんとするか、敢て之れを怨むの心は起らない、自ら自らを信じ、自らの起つべき處を知つて居るものには押除けなければ進めぬと考へて居る人を助け、望を完うせしめて心寛く體胖に、自らの進んで行く道を進み得るのである。凡ての事は人格の生まるゝと共に暖き曙光を帶びて、春の日の長閑なる生涯に入る事が出來るのである。此各自の心に人の子の生まるゝ迄は「我はこれ主の使女なり」といふ天よりの使命の各自の上にある事を信じて、人格の出生を望み如何なる苦勞も忍ばねばならぬのである。主イエスは女子を生まんとすれば憂ふ、されど生めば其苦を忘る、これ人の子の生まれし喜によりてなり」と言はれて居る。これ申すまでもなく人格の生れ出づるまでの勞苦は、此生れ出る事によつて償はれるものである。而して又凡ての人は此運命を持て居る事を敎へられたものであります。如何諸氏は果して此使命を感し、マリヤの如く「我はこれ主の使女なり、汝の言へる如く我にあれかし」と使命を自覺して、困難を蹈破る覺悟が腹に据て居りますか。聊感を述べて諸氏の反省を乞ふた所以であります。

クリスマスの歌

あさひはのぼりて　世をてらせり
　くらきにすむひと　きたりあふげ
智慧にみちたる主　よにいでたり
　おろかなるひとは　きたりまなべ
ちからにみつる主　よにのぞめり
　かよわきひと〴〵　きたりたのめ
やすきをたまふ主　よにくだれり
　くるしめるひとは　きたりうけよ
なぐさめたまふ主　よに生れます
　うれひあるひとは　きたりつげよ
いのちをたまふ主　世にきたれり
　つみに死にしひと　きたりいきよ
すくひをたまふ主　よにうまれぬ
　たかきもひくきも　きたりいはへ
あめつちしらす主　よにあらはる
　よろづのものみな　動みうたへ

慕ふ心

白井胤保

一

人の心には色々なる貴いものが藏められてある。其のうちには實に美しい花が咲き、立派な果を結ぶべき種子が澤山ある。然し我々は斯る貴いものを有つて居ながら、之を甚だ詰らなく取扱つて、折角芽蓄の出かけて居るものを、花も待ずに枯らして了うやうな殺風景なことを遣ることが少くない。人の價値は其のうちに有つて居る此等の貴いものを良く發達せしむると、詰らなく枯らして了うのとで定まるのである。是れは我々の心懸け一つで何うにでもなるのである。嘗てグリシヤの名高い彫刻家が或る地方に在つたとき、一つの大理石を見つけ、其の讓り受けを所有者に交渉した。すると所有者の云ふやう、此の石は今まで多くの彫刻家が試みたけれど、到底物にならぬとして打ち遣られたものであると。然るに此の彫刻家は大いに見處があつたと見えて、遂に之を讓り受け、暫らく經つと立派な天使の像を彫み上げたと云ふ話がある。外のものは到底駄目だ、見込みがないと打ち棄てたが、此の人は目の着けどころが違つて、其のうちに如何にも立派な天使の姿を見たのである。此の話の如く、我々のうちにも天使のやうな立派な姿を彫み上げるに足るべき良き材料があるのである。然るに我々は之を詰らなく、馬鹿々々しく打ち遣つたり、亂暴に叩き壞したりすることが少なくはなからうか。所謂寶の持ち腐れと云ふ氣味がありはすまいか。前のグリシヤの天才の言と記憶するが、「人の才能は、之より奥に入る可らずとの制札は立つて居らぬ」と云ふ言がある。實に然うである。我々の心の作用には、決して之より奥に入る可らずと云ふ區域がない。それで我々が注意して發達せしむるならば、如何ほどでも立派になり得るのである。天才の又の名は努力と云ふ。努力して進んで已まずんば、世の中に出來ぬと云ふものはないのである。

二

人の心には慕ふ心、憧憬れる心がある。假令其の現はし方や、はたらきかけるものは、様々に違つて

も、此の心の作用は誰にでもある。是れは人間の有つて居る最も貴い寶の一である。人生の喜劇と悲劇も多くは此の心の波瀾である。人が志を立てゝ向上心を奮起するのも、また此の心の喚發である。世には名とか、金とか、成功とか云ふものを慕ふて、之に全心を注ぎ込んで居るものもある。然し總ての人の心は、人の愛の甘美を慕ひ、人の力の助けを求めて居る。古人の詩に「川の流は大洋に呑み込まれると喜ぶ如く、女は男に呑み込まれんことを喜ぶ」と云ふ意味の句がある。是れは女ばかりではない。また何人も皆な或るものに呑み込まれんことを望み、また之を喜ぶのである。是れが人情の自然である。若し人の心に斯る憧憬るゝ心がなかつたならば、人生は如何にも殺風景な無味乾燥なものになつて了うであらう。是れあるが爲めに歌も出來、泣くことも、笑ふこともあるのである。然し此の心を肉の世界にのみ活動せしめて、無意味な詰らないものにして了うことは甚だ殘念である。愛は人を靈の世界、永遠の世界に導くものである。或る詩人は、戀人が互に何時までも愛してよと云ひ交すは、人の心が永遠を要求する證據であると云つて居る。ダンテは、地獄煉獄を廻はり廻る間は、自分の師事して居る哲學者が案内に立つてくれたが、彼等は其れ以上に導くことが出來なかつた、此の時に彼が常に慕ひあこがれて居るビアトリチエが現はれて彼を天に導いたと歌つて居る。智識には限りがあるが、愛は永遠なるものである。愛は月の世界から靈の世界に引き上げ得る力がある。我々は此の心をもつと尊重したい。

三

人の心は美しいもの、眞なるもの、美しいもの、善いものを慕ふて、之に勇む。此の心は低いものから高いものに、小さいものから大きなものに向つて次第に引き上げられる。所謂向上發展するものである。維新の志士はたとひ妻は病床に臥し、兒は飢ゑに泣くやうな忍び難い場合にも、尚ほ國難の爲めに身を挺んでゝ之に赴くと云ふ義に勇む精神が滿ちて居た。大いなる義を見ては、一身一家の事を顧る遑なきに至るのが人の至誠である。私心のない人の生涯や、獻身的の行爲や、人道の爲めに盡せる勇者のことを見聞する毎に、我々の血は躍り、我々の心は之に共鳴するではないか。而して自身の今の生活の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

如何にも低く卑しく詰らないことを切に感じて、是れではならぬと大いに奮發するに至るではないか。人は自身の利益の爲めにのみ動くものではない。大いなる義、大いなる善、大いなる眞理を見ると、心臟が激しく鼓動して、一身の利害得失などは考へず、只管之に慕ひ、之に憧憬れ、之に呑み込まれんことを願ふものである。我々はもつと人の心を價ひ高く買ひたい。喰はすに利を以てすることを賤い手段のやうに考へるものもあるが。我々は義に勇む心に訴えることが眞に人として志を立たせる所以であらうと思ふ。

四

然らば此の慕ふ心、憧憬るゝ心は詰るところ何ものを探し求めて居るのであらうか。何ものに觸れたならば眞に滿足するであらうか。以色列の詩人は

あゝ神よ
鹿の溪水を慕ひ喘ぐ如く、
我が靈は汝を慕ひ喘ぐなり。
我が靈は渇ける如くに神を慕ふ、
活ける神をぞ慕ふ。

と歌つて居るが、是れが人心最奧の欲求を適切に云ひ現はしたものであらうと思ふ。ヘブル語では靈と云ふ字は女性で、此所にある鹿も牝鹿である。喘ぐと云ふ働詞も女性であるさうだ。牝鹿が渇きながら溪間に水音を聞きながら躊躇してもぢ／＼して居るやうに、人の靈も神を慕ひ求めて居りながら、氣憶れしたり、遠慮したりして、思ひ切つて之を求め、之を愛し、之に事へる氣になれないで居る有様が見える。或は自らはまだ斯の如く神を慕ひ喘いで居ることを判然と意識しないかも知れぬが、確かに人の心に強く作用いて居る慕ふ心、憧憬るゝ心は、神に到達しなくては滿足が出來ぬのである。維新の志士の例を再び引いて來るならば、彼等は人情の忍び難きをも忍んで國難に赴いた。其の苦衷は誰も知らないであらうが、只だ天地の神明は知つて居られると云ふ信念を有つて居た。漠然たるところはあるが、人間以上の或る大いなる實死者の知己に、己が苦衷を慰めて居た。此の信念がなくては心が落ち着かぬのである。アウガスチンが『我々の心は神に於て安んずるまでは決して安んずるものではない』と云つた通りである。人は最も眞面目になると必ず神を見る『心の清き者は福なり、其の人は神を見るべけれ

ばなり』。志士仁人と云ふやうな眞面目な人の靈は常に神に通ふて得る。或る人は如何なる種類の英雄であつても、其の心には非常に誠實なものがある、其の誠實な心にはまた神の信念が宿つて得ると云つたが、英雄ばかりではない、人は誰でも眞劍になると必ず神に呼はるものである。先帝の御製にも『目に見えぬ神の心にかよふこそ、人の心の誠なりけれ』とある。室鳩巣も駿臺雜話に『神前にて其の心他念なく一筋に誠なれば、神も其の誠のなりに來格して、かたみに感動する程に、涙もこぼれつべし。たとへば清く澄める水には、其のまゝ月の映りて、互に光をますが如し。久しくなれば誠に渾融して神と人とをわかず、たとへば水や空、空や水、ひとつに通ひて澄めるが如し。こゝに至つて洋々乎として其の上に在るが如く、其の左右に在るが如くなるべし。是れ神のあらはるゝなり。誠のおほふべからざるなり』と云つて居る。以色列の詩人は活ける神を慕ふと歌つたが、人の慕ひ喘ひて居る神は、對絶と云ふやうな漠然たる抽象的のものや、運命と云ふやうな冷かなる死物では滿足しない。心と心とが通ふものでなくてはならぬ。我々の胸の鼓動が響き合ふ活けるものでなくてはならぬ。

五

此に至ると我々はナザレの耶蘇に於て、活ける神を慕ひ、之に憧憬るゝ心が、最も完全に、最も圓滿に發達して居ることを見るのである。我々も此所まで發達しなければ眞箇でないと思はれるのである。神に對する耶蘇の態度を見れば、今まで我々の心には何となく雲のかゝつたやうに思はれて居た神の觀念が、如何にも鮮明に、少しの疑ひもなく晴々した氣持で、すつかり身も心も打ち込んで之に委せ、之を愛し、之に事へ、之に呑み込まれることを喜ぶやうになる。耶蘇は神を父と呼ばれたが、其の神に對する態度は孝子が慈愛深き父に事へるやうなものがあつた。『我は父に在り、父は我に在る』と自らも云はれて居る。神の靈と耶蘇の靈とはしつくりと合つて水も漏さぬと云ふやうな契合一致があつた。隨つて其の心には何物を以ても奪ふ可らざる安心と喜悅とがあつたのである。我々の靈もまた注意して之を培養して行けば、必ず此う云ふ風に發達し得るのである。加之基督の人格には我々の此の心を引き上げて之を圓滿に發達せしめ得る力がある。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「霧の中より」を讀む

エム、エル、マシユウ

凡ての讚美の中、一番きれいな一つは路加傳の一章に書いてあるイエスの母マリヤの讚美でありますこの歌を讀むとこの精神の中にクリスマスの深い喜びの性質もあらはれ、深い信仰も現はれ居ります。イエスのお生れになりました後、千九百十二年後の今日迄の喜びを考へて見ますと、このマリヤの言葉は適當なやうに覺えます。けれどもマリヤがこの言葉を云ひました時は、まだイエスはこの世にあれまさぬ前、即ちその尊き生涯が始らぬ時であり、マリヤはいまだ身分も低い方でその望みは達せられては居りませんでした。只神樣の約束に信仰を持ちこの喜びが出來たので御座いました。このマリヤを始め私共今に於てもクリスマスの喜びは凡て信仰の喜びであると思ひます。もしマリヤが神の御使ひを信じませんでしたなら、その子供にあの樣な聖い敎へを授けませんでした。またイエスが神の仰せを聞き、之れを信じませんでしたなら、誠の道をずつと死ぬ迄歩む事が出來ませんでした。從つてこの世を救ふ事も出來ず、弟子達も凡てのキリスト信者もキリストの御敎へを信じませんでしたならば、多勢の人々にはキリスト敎の信仰を喜び、樂しむ事は出來ませんでした。このマリヤのやうな喜びと深い信仰を考へますと、どうしてこの淸い信仰が出來たかと思はずには居られません。この間「霧の中より」といふ書物を讀みまして、信仰の始めといふ事に就て大層面白く感じました。この書物には或漁師の傳のやうな事が書いてありますが、この漁師の經驗と一般の人々の經驗とはよく似た點があり、特別に學生の經驗によく似て居ますから、一寸この書物に就て書いて見たいと思ひます。

扨この漁師はアメリカの東の洲に生れ、その親達はキリスト信者であつた爲め、大層よくその子を敎へたのであります。この子供が十九の年になりますと、父は是非或大學校に遣り度いと思ひましたけれども、若者は學問が嫌いで、どうしても海の方に行き度いといふので、家より出で、ラベドアといふ處に參りました。また親達は信者であつても、自分は決して信者にはならぬといふ決心が御座いました。ま

だ十九の若者でありましたが、身體は大層丈夫で、外の漁師と共に勇んで魚を捕りに行きました。其處は大層寒い處で、六月迄はその海に氷山があり、加之厚い霧に閉ざれるので、漁りする事は大層危う御座います。大抵その漁師は一つの大きな舟に乘り、一ヶ月或は六週間の間魚を捕りに行つて居り、毎朝その大きな舟から、二人宛小舟に乘つては漁に出掛けます。或時この若者は外の人と一緒にこの小舟に乘り、晩迄には歸る積りでしたから、食物も水も用意せず、只身一つで出かけました。然るにその本船から一寸離れますと、俄かに厚い霧がかゝつて、一寸先きも暗になりました。只確かに本船はこゝら邊にあると思つて、心もとなく思ひながらも、一日中仕事を續けました。いざ歸らうとするといくら探しても本船の在所が分らず、その日から八日間といふもの、漕いで漕いで漕ぎぬきました。けれども本船はおろか友船にも會ふ事が出來ず、食物も水も乏しくなり、身體は弱る斗りで、友は遂に氣が狂ひ出しました。けれどもこの若者は出來る丈け助からうと思ひましたから、じつとして何ものかの來るのを待つて居りました。その時ふと神樣の事が心に浮びました。今迄は絶えて神樣の事など思つた事もなく、祈りなどは迷信の事と思つて居りました。けれども親御さんからよくこれ等の原理は聞かされて居たのです。そしてこの危い場合に思はず、もし神樣といふ者がほんとうに在り、私共の誠の父であるならば、よもや私共のこの危險をお見逃しにはならず、必ずお助け下さる事であらう。神樣はきつとその思召を私共にお示し下さる事が出來るであらうと思ふ樣になりました。そしてとう〳〵外の道が御座いませんでしたから、一度祈らうと思ひ、只どうぞ神樣私を助けて下さいと祈りました。その祈りを致しましたが、一向に返事の樣な事はなく、前と同樣に只海と厚い霧斗りでした。けれどもその後でこの人の頭にきつとこの近所五十哩の範圍中に、舟が澤山あるに違ひない、もし方角さへ分りましたら、五十哩漕ぐ力は尙あるであらうと思はれました。その時ふと或る一方に行つて見やうといふ念が起りました。これは決心ではなく、衝動であつた。その前の八日間の中に度々さういふ樣な衝動が澤山ありまして、それに從つて一生懸命漕いで見ましたが、今迄何ものにも出遇ひませんでした。然し祈つてこの衝動が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ありましたから、これに從はうと決心してその方角に漕いでゆきました。するとその翌日に至つても、まだ何も御座いませんのに、力がすつかり失くなりますと、その人はまた祈りを致しました。「オヽ神樣私はあなたに祈りまして、その返事に從ひ、此處迄參りましたが、もう力が御座いませんから、どうぞ助け給へ」と祈りつゝ待つて居りました。そしてその後で不思議に霧があがつて、その近所に大きな舟が見えるやうになりました。この經驗の後、この人の命は助かりまして、また前の樣に働らきを續けました。ところが普通の生活に歸りますや否や、また前の樣に神樣の事に餘り注意致さぬやうになりましたそして二三年の間、前と同樣でありました。然し友の一人が基督信者になりましたから、この人も亦神樣の事に氣が付かなければならぬ樣になりました。その友の導きで、この人は次第に基督信者になりたいと思ふ樣になりました。けれどもなりたいと思ひましても、神樣をほんとに信ずる樣になる事が出來ませんでした。或日その友と一緒に論じて居りました時、その友に云ひますには、「あなたの云ふ事はやさしく見えます。もしあなたと同じ樣に私が信じましたなら、よろしう御座いますが、ほんとに信じない事をどうして信じられませうか。」と申しました。そこで友は問ふのに「祈りといふ事を御存じですか」「ハイ少し知て居ります」「それなら祈りを信じなさるか」「左樣信じます」「それでもし神樣に信仰を下さるやうに祈りましたならば、神樣がその信仰を與へないでせうか」と聞きました。その言葉を聞きましてから、始めて信仰の始めといふ事は、今迄考へて居た事と違ふと思ふ樣になりました。今迄信仰といふのは只感情により、或は證據によつて分る事であると思ひました。けれども始めて信仰は感情でなく、證據でなく、意志によつて出來るのであるといふ事が分るやうになりました。それ故ほんとの信仰が御座いませんでも、さういふ信仰が欲しう御座いましたから、その信仰の爲めに神樣に祈りました。「神樣ほんとの道をお知らせ下さいまし」と祈りました。祈りましても特別な感情が御座いませんでした。只ほんとに信じたいと思ひました。そして出來る丈け信じませうといふ決心があつた丈けでした。その人の話にその時迄外から受けた感情、衝動に氣が付きませんでした。自ら自分の意志の通りそ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の事を致した斗りでした。その翌週から毎日友と一緒に基督教の集會に出席して、いろ〳〵の話を聞きました。そして毎日同じ様に信仰の爲めに祈りを致しました。けれども五日の間は何の變も御座いませんでした。その日その事に就て深く考へて居りました時、大層失望を覺えましたといふのは、これほど熱心に祈つて居るにも拘らず、まだ神樣からはつきりと御返事が御座いませんのは、もしや神樣は無いのではなからうか、と疑ひ始めました。そして大層疲れた心地でした。然るにその時俄かにこういふ思ひが起りました。今迄は只信じて見ませうといふ心で、一生懸命に自分の方から神樣を求めて居りまして、出來る丈け基督教信者のやうな生活をして見て居りました。けれども、とう〳〵分りましたのは、もしその樣に自分の力で神樣を見付ける事が出來ましたならば、それは獨合點のもので、信仰ではないといふ事がはつきり分りました。そしてそれが分りますと直ぐにこういふ決心を致しました。神樣に從ふ事は、よい事であるとよく知れた事でありますから、神樣から御返事が御座いませんでも、前よりもいゝ感情が御座いませんでも、これから私は知つた限り神樣に從ひますと固い志を起しました。そしてそれが定りましたので、前の樣な落付きのない心を抱いて神樣を探すことを止めました。するとその人の波立つ心の中に、どこからか深い靜かな平和の感情が注ぎ込みました。かやうな心の作用があるとは全く豫期致した事ではありませんから、想像であるとは申されません。そしてその平和と一緒に今迄の生活の原則も、力も、勇氣も、前よりずつと高くなりました樣でした。そして今迄の臆病と不信仰と厭世性もすつかりなくなりました。するとこれは神樣から下すつた事に違いないと分りました。私はこの書物を讀みました時に、信仰の始めは實にこの通りであると思ひました。そして前にも申ました通りクリスマスの時の眞の喜びを私共が求むるならば、眞實な信仰がなければなりません。それは神樣は私共人間をほんとうに信じ、愛されたのでありますから、私共も神樣と同じ樣に、互に外の人間を兄弟と同樣に深く信じて愛する樣になるからであります。若し私共はほんとうに神樣に對するにも、外の人々に對するにも、信仰を持ちますならば、マリヤと同樣に（ルカ傳一、四六－四八）主を讃美する事が出來ます

基督と人生（二）

柏井生

古來の聖賢哲人と云はるる人のうち耶蘇の如く人生に近く又親切なる人あらざるべし。其の經驗より云へば、ベテレヘムの馬槽のなかにて呱々の聲を擧げ給ひしより平民として平民の間に生長し具に人生の悲喜哀樂を嘗め其の死に至りて最も深刻を極めぬ其の教の結果より云へば、世界の人生觀を一覽して其の現狀、其の理想、其の動機につきて全く新しき光明を與へたり。基督と人生の關係、これ我等が最も多く研究する價値あり興味ある題目にあらずや。されば救主の降誕を祝せんとする此の期節を始として數回に亘りての題目につきて幾分にても順序ある研究を試みんとす。先づ耶蘇が人生の現狀を如何に觀らるるかを觀んと欲す。

人生の現狀

耶蘇は人生は夢の如きものなり浮べる雲の如きものなりとは云はず、彼の人生觀は倫理的なり。即ち善と惡との差別に基きて人生を觀たり。これ佛教などと根底に於て人生の見方を異にせる所なり。

されど彼は猥に、此は善人なり彼は惡人なりと云ふ風に區別せず。此の世界は實際善と惡と相混ぜる世界なり。一個人に就きて云ふも『汝等惡しきものながら善き賜を其の子に與ふることを知る』（馬太七十一）。世界より惡黨と目されて居る人にても其の子に對しては案外情深きものもあるなり。路加十六章一節以下に載せられたる不義なる番頭の話を見よ。其の爲すことは狡猾極まるものなり。然れども耶蘇は曰く『主人其の所爲の巧なるに因りて此の不義なる番頭を譽めたり、夫れ此の世の子輩は此の世に於て光の子輩よりも尤も巧なり』と。精神的の生活を營むものが理想信仰の爲に苦心し努力することは却て、世俗人が世俗の事の爲に苦心し努力するに如かぬことがある。又平常愛を說き道を講じて居る人が苦しみ惱む人に同情を表する點に於て却て門外漢に及ばぬこともある。路加傳十三十以下に見ゆる

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

善きサマリヤ人の物語は之を示して居る。
『天國は人畑に美き種を蒔くに似たり。人々の寢たる間に其の敵來り麥の中に稈子を蒔きて去れり。苗はえ出て實りたる時稈子も現れたり』(馬太十三〇二十四、二十五)。これ人生の現狀なり。然して善なるものと惡なるものと相混じ居るのみならず、相結ばり合ふて、輕々しく惡しきものは拔き去らんとせば善きものもともに拔かるる恐れあること少からず。人生の苦痛と云ふものは善いものとは云へぬが、しかしこの苦痛とからまり合ふて人生の最も美たる花が咲くのである。預言者ホゼアの妻の行ひの惡しかりしことに根ざしてホゼアの高尚なる考が喚び起された。『僕主人に曰ひけるは然らば我等往きて之を拔き集むるは宜きか。否恐くは汝等稈子を拔きあつめんとて麥をも共に拔くべし』と耶蘇の云はれた如くである。然らば耶蘇は此の世の害惡を其のままに打ち棄て置く考へなりやと云ふに然らず。彼は繩の鞭を揮つて神殿を清められたり。又已を礙かすものは手足にても之を斷つべきことを教へたり(馬太五〇二十九、三十)。然れども又忍耐して時機を待つべきことを教へたり。

さて人生の現狀につきて耶蘇の批評せられたる言を二三擧ぐるならば學ぶ所少からざるべし。試に馬太傳の始より讀みもて行かん。

『牧者なき羊の如く衆人なやみ又流離になりし故に之を見て憫み給ふ』(馬太十〇二十六)。これは福音書の著者の文章なれども耶蘇の心を表せり。「惱む」とは目當てなくさすらひて疲れ果て居る樣、「流離になる」とは此處に二三頭、彼處に二三頭と云ふ風に亂れ散れることを云ふ。

『我れこの世を何にたとへんや。童子街に坐して我等笛吹けども彼等躍らず哀をすれども汝等胸うたずと云ふに似たり。そはヨハネ來りて食ふこと飮むことをせざれば鬼に憑かれたる者なりと人々言へり人の子きたりて食ふこともし飮むことを爲れば又食を嗜み酒を好む人稅吏罪ある者の友なりと云ふ』(馬太十一〇十六―十九)。これは耶蘇が世人の批評を批評せるなり。注意せずして解する人は、此處はヨハネ及び耶蘇を笛吹き我は哀をする人にたとへ世人が彼等に同情し共鳴するものなきことを云へるやうに思ひ易けれどもそれにては十八十九節と意味一貫せず。童子は世の人のことなり。彼等は今婚禮の眞

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

似をして笛吹くかと見れば忽ち又葬式の眞似をなす其のなす事は兒戯に類す。彼等の宗教も亦兒戯的の宗教にして、ヨハネを批評するにも將た又耶蘇を批評するにも何の定見なく一時の氣紛より之を爲しつつあり。人生に對して眞面目なる處を缺けり。

『噫信なき曲れる世なるかな、われ何時まで汝等と偕に居らんや。我れ何時まで汝等を忍ばんや』(馬太十七〇十七)。これは耶蘇の弟子が癲癇に惱める或る小兒を癒やし得ざりし時に發せられたる嘆息なり。然してこの世間に信仰のなきことを嘆せられたり。

耶蘇は此の世に於て人互に躓かすことの多き事を以て大なる禍となしたり。曰く『此の世は禍なるかな、そは礙かすことをすればなり、礙かす事は必ず來らん、されど礙を來らすものは禍なる哉』(馬太十八〇七)余は基督敎の聖書の如く躓かすと云ふことを多く云へる書あるを知らず。其の事自身惡しきことに非るも其れが人を躓すことになれば之を控ふべきことを保羅は敎へたり。耶蘇は最も小き一人のものを躓かすよりは磨臼を首に懸けて海の深みに沈めらるる方勝れりと云へり。此を大罪と見るを知るべし。然るに今日の社會を見よ。親は子を躓かし、敎師は學生を躓かせ、政治の局に立てるものは人民を躓かしつつあり。

耶蘇は天國の民とならざる人々をば、職業を得ずして空しく巷に立てるものにたとへたり。(馬太二十〇一—七)。如何に其の人が忙しく働きつつある人にても、眞に人生の歸趣を知らず、神の御心を知らざる間は、人生は茲に空しく巷に立てるものにして、意味無く生活を送りつつあるものと云はざるを得ず

※　※　※　※　※

以上は耶蘇が人間社會を見又批評せられたる一班なり。さて彼はこの現狀に對して如何なる心持をせられしか。

耶蘇は之を嘆せられたり。馬可八〇十二に『イエス心の中に深く歎息して云ひけるは』とあり。又七〇三十四を見れば『天を仰ぎて歎じ』と記さる。又『何時まで我れ汝等と共に在らんや』との言も嘆息の聲なり。ヘンリイドラモンドは氣品高く信仰篤き蘇格蘭の學者なり。彼と同宿したる人の記する所に曰く『日曜日の夜我等は祈禱しつつありてドラモンドの歸り來りしを知らず之を畢りてスープの溫まりたるかを見んとして食堂に入りしにドラモンドが爐橡に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頭を凭して煖爐の火を見入り居るを見たり。余は言をかけしに彼は疲れたる顏を擧げぬ。乃ち葡萄酒の杯をさして疲れ給ひしやと問ひしに彼は否さまでの事もなしされど余は人々の罪の爲に病めり神は如何で之を忍び給ふべきと答へたり』同しく蘇格蘭の人にて敬虔なる學者デビドソンも或る時親しき友に向ひて人生の秘密と無常と寂寞と悲愴の感に堪へ得ず獨り止め度もなく泣くことありと語りたりと云ふ。清淨なる靈魂をもてる人の人生を見る感斯の如きものなり。まして耶蘇に於ては此の情如何にも切なりしものなりしならん。

耶蘇は怒りしこともあり。馬可三〇五には神が人々の無情なる仕打に對し怒を含みて環現されたることを記したり。耶蘇が神殿の汚されしを憤りて之を廓清したまひしも怒の現れなり。

然れども耶蘇が世の罪と惱に對せらるる心持の著しき態度は憐憫にてありき(馬太十〇三十六、十四〇十四)。彼は母鷄の雛を翼の下に集める如き調子を以て人の子を神の恩の翼の下に集めんとせり(路加十四〇三十四)。彼の行ひし奇跡も皆これ憐の表現に過ぎず。

耶蘇は斯の事く世の有樣を嘆き悲み怒られしと雖も、猶人生に對して希望を失ひ給はざりき。人生に對する興味と熱心常に盛なるものありき。彼は『時の休徵』に眼を留め、新しき時代の開くるに際會して心躍るばかりなりしが如し。『收穫は多く働く人の少き』を憾み給へり。彼は樂んで事を爲したまへり。馬可十一〇十二を見るに耶蘇は死ぬる爲め一週間或日朝宿りしベタニヤよりエルサレムに行くに饑えたりとあり。朝早く饑ゆるとは何故なるや。ラングの基督傳にこれは耶蘇が敎を説く爲に心勇み立ち朝餐のとゝのふを待たずしてエルサレムさして行かれたるが爲なりしならんと想像しありしを記憶す。當れるや否を知る由なけれど少くとも耶蘇の心を得たるものならん。

耶蘇がナザレの家庭に於て長く平和なる生活をなしたまひし事は人生の熱心を維持せしめしに關係ありと思はる。あまり若き時より人生の戰に出でし人は動もすれば早く人生に疲れて若き熱心を失ひ易き恐れあり。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の消息

◉日本基督教女子青年會

△新幹事の來朝　今回來朝のミス、ベーカーはカルホルニヤ洲リリラン、スタンホード大學の出身にして女子青年會に就ては特別の經驗を有せる人なり。今其の一班を記さんに、既に大學に在學の當時より學生間の同會に働らき、卒業後同地方の薬物園に働らく若き婦人等の爲め倶樂部を設立し、若き婦人等が安價に食事し、食後自由に休憩し、夜はまた此處に自由に出入して、勉强、遊戯するに辨じ、良結果を納むるを見て、更に紐育に赴き、女子青年會幹事練習所に於て一年の修練を積み、後東部大學生間に働らき、今夏その職を辭して日本來朝の準備にかゝり十一月廿七日を以て愈々本部に來着せられたり。今後二年を期し、日本語研究の後は、大阪に開かるゝ女子青年會幹事として赴任の筈なり。本會の愈々發展するに際し、かくの如く經驗に富める良幹事の來朝は、非常に幸福なる事といふべし。因に同女史の兩親は共に醫師にして、母君は我が大山公、瓜生男兩夫人等と共にバーサー大學に學びたるなりといふ。

△横濱女子倶樂部設立　今回本會所轄の下に左の趣意によりて設立さるゝに至れり。

趣意書

現今横濱市内に於て商店及會社に通勤執務する年若き女子(殊に外國語を能くし外國人設立の商會に出入する)其數益々多きを加ふ夫等の人の過半數は普通教育を受けたるものなれども未だ年少く志操もまた固からず然るに彼等には正午一時間乃至二時間の休憩時間を過すべき適當の休憩場所もなく彼等をして事務室乃至商店の控へ所に彷徨せしめ貴重の時間を費さしめんとす時間の徒費はなほ可ならんも趣味猶高からず品性未だ上らざる相互の雜居乃至談話は奈何なる誘惑の其中に潜まんも知るべからず之が向上の途を拓かんは洵に同胞の責任也我日本キリスト教女子青年會は玆に思ふところにあり彼等可憐の年少女子の爲智德を進め靈性を啓發せしめん目的を以て横濱市商業上交通便利なる中樞の場所に一倶樂部を新設し會食し談話する中に普く社交を博くし品性を高潔にし及諸般の學科に渉りて其智能を啓かしめんとす

目的

第一條　横濱市に於て諸般の事務に鞅掌する日本青年女子の爲一クラブを設立し食堂及休憩室に宛つること

第二條　同クラブを利用して教育を目的とせる學藝各組々を組織し簡易にして普遍なる學藝を授け

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て希望者の要求に應ずること

第三條　同クラブを日本青年女子集會の中心とし靈性を啓發し智育の發達を助け純潔なる社交の途を講ずること

約すれば三綱領は（即）目下適當の監督者及場所選定中なれば計畫を賛助せらるゝ同志と共に大正元年十二月中に該クラブ設立を開始せんとす

費用豫算

此の事業を試みんが爲滿一ヶ年の經營豫算左の如し

	一ヶ月	一ヶ年
家賃	六十圓	七百二十圓
幹事俸給	五十圓	六百圓
雇人	十二圓	百四十四圓
雜費 常備費	十五圓五十錢	百八十六圓
合計	壹百三十七圓五十錢	合計　壹千六百五十圓

收入豫算

方法	一ヶ年收入
會員會費	三百圓（但一人一ヶ月卅錢ノ割）
百圓ノ寄附者二名	二百圓
五十圓ノ寄附者十名	五百圓
二十五圓ノ寄附者十名	二百五十圓
十圓ノ寄附者廿名	二百圓
五圓ノ寄附者四十名	二百圓
合計　壹千六百五十圓	

△外人宿泊所の開始　昨誌委員會記事にマクドナルド幹事によりてその趣意を傳へられたる外人宿泊所は、今回ミス、ドルトン、ミス、カッソル兩女史の多大なる盡力により、且つは幸ひ赤坂區檜町十番地乃木坂籠に適當の洋館を借受くるを得たるにより、最早開始の運びに至れり。ミス、ドルトンは英國倫敦に於て二十年間自らの學校をも經營せられたる人、ミス、カッソルはその膝下に學びたる人にして、共に英國に於ける女子青年會の中央委員として久しく盡力せられたるが、今回一ヶ年間を期し日本視察の途に上り、本會に於て外國人宿泊所の計畫あるを聞くや自らその經營の任に當られんとし、自費を投じて設備一切を整へられ、歸國の際は二割を引き去り、本會に全部讓り渡す事となれり。就ては外國人旅行者にしてホテル宿泊を厭ふ者もしくは地方の宣敎師等にして、日本語研究の爲め上京せる者、その他成る可く多くの外人に紹介して、その便宜を計らんとす。宿泊料は一日四圓、三ヶ月以上は月八十圓、一、二ヶ月滯在の者は直接監督者と面談の上定めらるべし。

△編輯者辭任　小橋三四子は十二月號を限り本誌の編輯辭任につき、目下後任者撰定中

◎東京基督敎女子靑年會

△委員會　十一月廿四日午後三時より赤坂區新坂町四十三小室氏邸にて例會を開く。會計及び寄宿舍委員の報告に次ぎて、小室氏十一月に六名の新入會員

あり旨、三谷氏は近々二名聖書研究會より受洗するものありとの事を報告あり。次で役員の選擧を行ひ、會長三宮夫人、副會長今西糸子、書記長尾なみ子、寄宿舍委員長新渡戸夫人、他は從前の通り。

十二月クリスマス祝賀會を催さんため、委員としてミス、ページを擧ぐ。

工場に於けるクリスマス祝賀會には委員としてミス、ワトネ、小室みえ子氏を擧ぐ。

最後にミス、マシウは寄宿舍敷地財返濟金及び第三寄宿舍設立費として一萬五千圓募集中なりとの事及び各新聞紙に女子青年會事業紹介の爲め掲載方を依賴せる事等につき語らる。

△女子學生大會　既報の如く十一月十七日(日曜日)午後二時より神田青年會館に於て開會。井深花子氏司會の下に、聖書朗讀、讃美、祈禱の後、三谷民子氏は東京基督教女子青年會の現狀を語り、本會が聖書研究會に特に力を注ぐ所以につき、聖書の價値を語られ、河井道子氏は萬國基督教女子青年會につきいかに有力なる會なるかを語られ、それに連りて主の御用の爲めに働らくの光榮を說かる。來會者凡そ四百餘名。當日來會者に配布したる日本及び東京基督教女子青年會概報は左の如し。

日本國に於る基督教女子青年會

△中央基督教女子青年會概報

一、會員總數　千五百名

一、支部數　十九ヶ所

一、機關雜誌「女子青年界」發行

一、第七回夏期修養會(明治四十五年)　二百二十八名

△東京基督教女子青年會事業概報

一、會員總數　百六十一名

一、寄宿舍(第一牛込納戸町、第二小石川安藤坂)　二ヶ所

寄宿生數　五十名

一、學生聖書研究會　十七組

在生徒總數　百七十二名

一、看護婦聖書研究會　一組

一、英語會　二組

一、タイプライター練習會　一組

一、工場傳道　每月一回

一、宗教的及び社交的諸集會

左は計畫中

一、第三寄宿舍設立

一、青年女子の爲めの集樂館(クラブ)

一、各區に於る最寄集會

大正元年十一月

◎札幌女子青年會

「前略」本會は神の御力の加りて、日々盛大に赴きつゝあり候。去る三月に役員改選の結果、會頭竹崎峰子、副會頭國井綾子(北星)、書記一柳絲子(高等女學校)、會計建部もと子、評議員モンク師、宗教委員長山下竹子(高等女學校)社交委員長坂本しげ子、訪問委員長美馬つや子(職業學校)と相成り候。

現會員數は五十三名にて、內正會員三十七名、准會員十五名、贊助員一名に御座候。

每月第二日曜日に或西洋人の客家を借りて精神修

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

養の爲例會を催し誠に有益なる會合に御座候。札幌に於ける各女學校生の集るにて候へば、種々考へも異り、大に益する所これあり候。例會出席者の數は概ね十七八名に御座候。又毎月第一月曜日には役員會を竹崎會長宅にて開會致し、當會の發達を計り居り候。尙本會は近頃左の三ケ所に聖書研究會を開き居候。

一、毎水曜日午後二時半より、特別に職業學生の爲め、南七條西三丁目井上兄方にて、教師谷口待子來會者凡そ八九名

一、毎水曜日午後二時半より高等女學校生徒の爲北一、西久、青年會館にて、教師竹崎牧師

一、毎日曜日午後二時より北四、西一、にて一般婦人の爲、教師モンク師

何卒之れ等の研究會が益々盛んになる樣御祈り下され度候。尙ほ先日宗教委員集りて、毎例會の題を決せられ候。十一月エステルよりの教訓、十二月聖マリヤの性格、一月忍耐、二月葡萄樹の譬、三月は公會を催し、辯士を御招きする事と相成候

一學期一回開くべき親睦會は、去る九月三十日開催、來會者廿四名斗りにて、凡そ二時間程の時を面白く送り候ひき。

◎ウ井ルミナ女學校

△九月十九日女子青年會夏期修養會報告のため、講堂に集會す。

△同月廿四日貪欲と其結果てふ題のもとに、各級に於て青年會を開く。各組とも有益なる集會なりき。

△十月一日正會員は一室に於て祈禱會をなし、准會員は三組に別れ、各々質問會を開く。

△同月八日怒と其結果と題し、聖句創四章一節―八節により各級にて集會す。

△同月十五日講話の筈なりしも、都合により信仰といふ題にて講堂に集會し、各級の姉妹方より熱誠籠れる有益なる感話をうかゞふ。殘念にも時間に制限あれば中途にて閉會す。盛會なりき。

△十月二十九日祈禱會質問會の筈なりしも山室軍平氏の來阪を幸、同氏の講話をうかゞふ事となりぬ。信者も求道者も各々得る處多かりき。其大略は第一人は神によりて生るゝものならざるべからず、第二神の子となりたるものは神によりて生くべし、第三我等神の子ならば、神の保護を受くべき筈のものなり、第四神の子たるものは神の教を受くべきなり、第五神と共に居らざるべからず。と云ふにありき。

◎橫濱共立女學校

△大正元年九月二十日午後三時より河井道子氏當校の聘に應じて來校せられ、次の趣意の下に約四十分の講話を試らる。「我等すべての方面に於て成長し役に立つ者とならざるべからざる事」其後特に委員一同と共に一時間程懇話せらる△同九月三十日青年會事務會執行、決議事項左の如し

一クリスマスに癩病院へ慰問袋或は金子を送る事

一先年の如くアメリカへ品物を送り、青年會費用をつくる事

一慈善會（時を定め會員一同にて裁縫其他の事を

なし幾分の金子を得、以つて慈善事業にあつゝの働に通學生會員も加はる事

△其他同月廿八日青年會事務會執行、決議事項如左

一、來る十一月二十八日感謝日に際し、貧困なる人々に贈物を爲す事。

貧困者の調査は、傳道部委員に依賴し、概め切符を配布し、當日品物と引換へにする事

一、前回決議せる癩病院へ慰問袋を送る事は都合上中止となり、引かへて大阪某工場の工女等にクリスマス贈物をする事と決定す。

其他傳道部、慈風部、祈禱部の各部は集會は從前の通り月曜日毎に順を追ふて開會いたし居り候

辭任の辭

小橋三四子

愛らしき小冊子「明治の女子」と呼ばれた頃、私が小此木氏を助けてその編輯の任に當り始めてから、はや一年と八ケ月の親しみを重ねました。然しこの九月迄は會の事務の傍ら之れを致しました事とて誠に不本意の事のみ多く僅にこゝ數ケ月專心之れを省みるに過ぎませんでしたが、幸に暖かき人の情けも乏しからで、すく〳〵と生ひ立ち、今や人がましくならうとするのを見るのは云ひ知れぬ喜びで御座います。然るに今回自分の都合上本誌と袂れなければならぬ運命に立ち至りました。私は幾度か祈つて、我儘でありませうか　神樣の思召でありませうかと問ひ試みましたが、今は斷然凡ての事に離れて一段の修養を積む必要を認めましたので、本部には既に一ケ月前後任者の撰定を乞ひ、もしその時至らば後任者の有無に拘らず、辭任致す事と約しましたがもはや約束の時は滿ちました。後任者を得ずして此處を去るのは、一層の苦痛に感じますが必ず遠からずよりよき者を與へらるる事と信じて私に安んずる次第であります。これよりは自分は忠實なる本誌の購讀者として、蔭ながら發展を希ひたいと思ふ次第であります。わが「女子青年界」よ、その使命を擔ひて永遠に幸あれ。

●正誤

前號「會の消息」中夏期修養會會計報告の計算に違ひあり、收支共金一千百圓二十七錢なる事、及び寄宿舍敷地の爲負債高は三百九十餘圓とありしは三千九百餘圓の誤りにつき訂正す。

クリスマスのために

著者	書名	定價	郵税
毛利薫	樅山のクリスマス	廿錢	四錢
ブラウン女史	ゆきびら（譜入）	五十錢	八錢
納所辨次郎	クリスマス讃美歌	三錢	二錢
大宮季貞	犬の話	廿錢	四錢
田中太郎	懸賞美談 薄命兒	三十錢	四錢
新島善直	たのしいクリスマス	廿錢	四錢
藤川淡水	バイブルお伽噺	五十錢	六錢
紫園山人	少女日記 忘れな草	四十錢	六錢
松居松葉	お伽草紙	三十錢	四錢
松本雲舟	[illegible] 聖戰	壹圓十錢	十二錢

發兌 東京銀座 警醒社書店 振替東京 五五三番

大正元年十二月一日納本發行(毎月一回一日發行)
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

Volume IX. *December, 1912* *No. 11*

The Christmas Sprit.	Miss Matsu Okonogi.
The Birth of Christ.	Mr. T. Yamada.
Mary and Elizabeth.	Rev. T. Tsuga.
The Home as a Place of Discipline.	Mr. D. Tagawa.
Longing.	Mr. Shirai.
Toughts on "Out of the Fog"	Miss L. M. Matthew
Christ and Life.	Mr. E. Kashiwai.
Association Notes.	

National Y. W. C. A.-The Arrival of a New Secretary, Yokohama Young Womens Club, Home for Foreigners, Resignation of Miss Kohashi. Tokyo Y. W. C. A.—Committee Meetngs, The Annual Meeting for Women Students.-Sapporo Y. W. C. A. Wilmina Jogakko. Kyoritsu Jogakko.

On Leaving the Office of Editor.	Miss Miyo Kohashi.

The Official Organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan.

東京赤坂區田町 齋藤活版所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA